

センター試験の 分析と対応

渡辺 聡

東京学芸大学附属高等学校

Ⅰ 2009年度筆記試験の分析と対応

1. 全体的な傾向

今年のセンター試験〔筆記〕でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がされた。昨年度とは出題形式に若干の変化があり、(第1問Cが3問から1問になりDが新たに加わった)マーク数は51から50になった。マーク数が減少したといっても、この量を80分でこなすためには正確かつ迅速に問題を解くリズムが必要とされる。レベルとしては例年通り基本的な問題が多く難問はないが、全体として設問内容が難化したため、平均点は昨年度より約10点低くなった。例年同様、まぎらわしい選択肢がいくつかあるので細心の注意力が求められる。

コミュニケーション能力をみる問題としては、
第1問A：単語をきちんとした音で発話する能力
第1問B：単語を正しいアクセントで発話する能力
第1問C：文中である語を強調して発音する場合
の話者の意図を理解する能力

第1問D：文中で音声の強弱を判断する能力

第2問B：対話がスムーズに流れるよう、適切な
発話を考える能力

第3問A：難しい表現でも全体の流れから意味を
類推する能力

第3問B：発言の内容を要約する能力
が例年通り求められている。

また読解力では、
第3問C：パラグラフ単位で文章の構成を論理的
に思考する能力

第4問：グラフや書類を参考にして文章を正確に
読み取る能力

第5問：イラスト、絵、4コマ漫画等視覚で得ら

れる情報を正確に読み取る能力

第6問：エッセイの流れを正確に追い、話者の趣
旨をつかみながら長文を読み取る能力
が試される。いずれも文章の全体的な流れをつ
かんだ上での確かな情報を読み取る日頃の学習姿
勢が問われる。

全体の総語数は4,000を超えているので、正
確にかつ速く読む力が要求される。

2. 具体的内容分析

<第1問>

Aは昨年度と形式、配点は変わらず。Bは同じ
強勢形を選ぶ問題から第一アクセントの位置が
同じ語を選ぶ問題に変わった。Cは昨年度の3問
から1問になり、新たに文中で強く発音する個所
を選ぶ問題のDが加わった。

A 発音 (6点：解答数3)

基本的な単語の発音を問う問題。母音だけでな
く子音や黙字、アクセントの位置にも注意を払
いたい。

B アクセント (4点：解答数2)

単語のアクセントのある箇所を問う問題。全て
3音節以上の語である。いずれも基本的な語であ
るが、音節をしっかりと区切り、第一アクセ
ントの位置をしっかりとつかんでいることが最低条
件となる。

C 発話の強勢の意図 (3点：解答数1)

ある語を強く発音した場合の話者の意図を理解
する問題。強く発音される語と他の語との意味
の軽重はなぜあるのか。対応する情報 (mathと
subject) が引き出せればそう難しくはないであ
ろう。

D 文章の中での単語の強弱（3点；解答数1）

文章の中で音声の強弱を判断する問題。文中で強く発音される名詞、動詞、形容詞、副詞等の内容語を中心に選ばばよい。

<第2問>

形式、配点ともに昨年度と変わらず。

A 語彙、語法、文法（20点；解答数10）

単語、イディオム、動詞の語法・構文、時制、コロケーションを判断する問題。動詞の語法を問う問題（remember + -ing [問2]、spend + -ing [問4]）は頻出である。語法やコロケーションの力を併せて要求する問題（in the direction of [問3]、close down [問6]、heavy traffic [問7]）も相変わらず多い。基本的な動詞（run [問10]）、不可算名詞や同義語等の幅広い知識も合わせ持っておきたい。

B 対話文完成（12点；解答数3）

対話文を完成させる問題。発話数は昨年度と同様3～4だが、1つの台詞が長くなっている。空所の前後のせりふを参考に、会話がどのような流れになっているかを考える。全体の文脈の流れをしっかりとつかんだ上で、会話特有の表現（Why not ~? [問2]、For here or to go?、I'll put you through. [問2選択肢]）にも慣れておきたい。

C 語句整序（12点；解答数6）

状況を説明する文が昨年度よりも長くなった。各文の中に含まれる語彙・語法・熟語（have effect on [問1]、book（動詞）[問2]）を使い、意味の通る文を作る問題。語法・熟語の知識だけでなく、関係代名詞の省略（everything you eat [問1]）やif省略の条件節（had I ~ [問3]）といった文法・構文の知識も必要とされる。

<第3問>

形式、配点ともに昨年度と変わらず。Aの本文の総語数は昨年度より減少し、1問は対話文となった。Bの総語数は減少し、Cは増加した。

A 語やフレーズの意味類推（8点；解答数2）

下線部の表現や単語の意味を全体から類推する問題。対話や1パラグラフの中でどのように状況が推移しているのかを正確に読み取り、ヒントとなる語（句）をもとに想像力を働かせる。

B 発言の意図の要約（18点；解答数3）

3人の発話を要約する問題。ある具体的事例を

別の単語を使って要約している（this を quality で、lots of friendsを quantityでそれぞれ言い換え [空欄29]）ので、幅広い語彙とポイントを押さえる柔軟な読解力が必要とされる。

C 適文補充（18点；解答数3）

指定された空欄に選択肢で与えられた適切な文を入れる問題。

選択肢の文中、及び挿入箇所前後の代名詞や指示語、接続する語（句）に気をつけ、論が正しく展開するよう当てはめてゆく。「単語→文→段落→全体の構成」を捉えるためには、各文をきちんと読み取る力と大きな視野で流れを捉える力の両方が必要となる。

<第4問>

形式、配点ともに昨年度と変わらず。図表読み取り読解問題。昨年度Aにあった本文中の空所補充問題はなくなった。

A グラフ読み取り問題（18点；解答数3）

本文とグラフを参考に、展開される論からの確かな情報を得る力を問う問題。グラフは参考程度で、本文の読み取りが中心となる。

B 書類読み取り問題（18点；解答数3）

医療機関での問診票から適切な情報を読み取る問題。まず設問を読み、求められている情報がどこにあるのかを探し出していく。

<第5問>（18点；解答数3）

形式、配点ともに昨年度と変わらず。イラスト読み取り読解問題。総語数は昨年度より増加した。

A イラスト説明問題（6点；解答数1）**B イラスト選択問題（6点；解答数1）****C 4コマ漫画説明問題（6点；解答数1）**

それぞれの選択肢がどの点で他と違うのか、一つひとつの事項を最後まで順を追って確認していく慎重さが要求される。

<第6問>（42点；解答数7）

形式、配点ともに昨年度と変わらず。長文読解問題。本文の総語数は昨年度とほぼ同じ。

エッセイを読んで質問に答える問題。各パラグラフをトピック別に分類する問題（問6）や論全体の意図をまとめる問題（問7）は例年通り出されている。各パラグラフのポイントをつかみ、話がどのように展開し、話者はなにを言おうとしているのか、といった深い読み方ができる力

を養っておきたい。また、正解の選択肢は本文に載っていない単語（表現）で求められる場合も多いので、基本的な類義語力も必要である。

3. 昨年度と変化のあった点と新傾向

- ①総語数が若干増えた。
- ②第1問Bが同じ強勢形を選ぶ問題から第一アクセントの位置が同じ語を選ぶ問題に変わった。
- ③第1問Cが3問から1問に減り、新たにDが加わった。第1問全体の配点は変化なし。
- ④第2問Cの選択肢が5から6に増えた。また、状況を説明する文が昨年度よりも長くなった。
- ⑤第3問Aの本文の一つが対話文となった。
- ⑥第4問Aの本文中の空所がなくなった。
- ⑦発話の中での単語の強弱を問う問題（第1問D）が加わった。

4. 日頃の学習で大切なこと

①多面的に語彙を増やす

ただ単に単語の意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、反意語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換など、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると、未知の語に遭遇したときにも、想像力を働かせて意味がつかめるようになる。

②語と語のつながり（語法、Collocation）に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語がどのような語と一緒に使われる場合が多いのかに気を配る習慣を身に付けておきたい。

③英語を聞き、自ら口にする

アクセント・強勢・構文（主語と述語の区切れや省略等）に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をすることが大切である。能動的に音読をするためにはただ音をなぞるだけではなく、内容を理解する必要があるし、何回も繰り返して読み込んでゆけば、なによりも、英語の音に対する興味・関心が必ずや増し、同時にリスニング試験の対策にもなり得る。

④論理展開を重視した読解力を養う

どんな読み物でも最後まで通して読み、論の展開がどのようになっているかをパラグラフ中心に考える。パラグラフがどのように構成されているか、全体の論調を捉えてから、それを確認補足する細部（各文のポイント）を読み取りを行って読解力を養いたい。

⑤多読を心がける

80分で4,000語を越える分量の英語を読みこなすには、ふだんから500～1,000語の文章のある程度のスピードをもって読むことが大切である。一部にこだわり過ぎて「木を見て森を見ず」にならぬよう大きな視野を養えば、それがより深い内容理解につながる。

⑥すべてがわからなくても良しとする

センター試験では、難しい単語が使われていても別の箇所での説明が異なる表現で述べられる場合が多い。わからない単語一つにこだわることなく、他の部分の文章から類推しようとする姿勢も大切である。

Ⅱ 2009年度リスニング試験の分析と対応

1. 全体的な傾向

読まれる総語数は、昨年度のリスニング問題とほぼ同じ。読み上げ速度にも変化がなく、ナチュラルな感じの英語である。内容はいずれも生徒の日常生活や学校生活の中で起きうる身近な話題がテーマになっている。出題形式、解答数、配点はいずれも昨年度と同じであるが、聞いた語をそのまま答えるのではなく、英語を聞いて一考を必要とする設問が増え難化し、平均

点も約24点と過去最低となった。

2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル（12点：解答数6）

- 対話を聞き、イラスト、数字、語句を選択する
- 各対話の総語数：30語前後

イラストや図、数字を見ながら放送を聞く。最初の台詞で状況をだまかに把握し、求められる情報を的確に探し出す。対話に出てくる語（句）や数字が全て答えになるとは限らず、計算する必

要がある設問も複数ある (5:00 + 2 hours - 15 minutes [問1] や $(\$5 - \$1) \times 11 + 0$ [問6])。キーワードは2番目～4番目のせりふに出てくるが、logo [問2] といった短い音や、big hands [問5] など簡単だが一つの意味を知っているだけでは対応できない語にも注意を払いたい。

<第2問>対話応答補充 (14点：解答数7)

- 対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する
- 各対話の語数：20語弱～30語強

問8

Man : Is everybody here now?

Woman : We're still missing Margaret.

Man : Oh, now I remember. She said she can't make it.

選択肢：

- ① I see. I hope she'll be here soon.
- ② I see. I remember her, too.
- ③ OK. She must have forgotten.
- ④ OK. We should go ahead then. (正解)

相手の質問した(述べた)ことへの自然な反応を考える。普通の会話はいつも相手への質問で終わる訳ではないように、相手の応答の前の台詞が必ずしも質問形になっていない場合もあることを覚えておく。また、make it、go ahead [問8] 等、日常生活でよく使用されるフレーズにも慣れておきたい。

<第3問A>対話内容Q&A (6点：解答数3)

- 対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する
- 各対話の総語数：40～50語前後

問16

Man : Could I take a day off tomorrow?

Woman : Well, we're pretty busy on Saturdays.

Man : I know, but I'd like to attend my friend's wedding. I can work an extra day next week instead.

Woman : I guess that'll work, but next time let me know earlier.

質問：What does the woman say?

選択肢：

- ① The man can take Saturday off this week.
- ② The man cannot go to his friend's wedding.

③ The man should not work an additional day next week.

④ The man should tell her about his absence next week.

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんととらえる。事前に選択肢を読み、最初のせりふを聞いた段階で場面が想像できるようにしたい。ただし最初に出てきた情報に変更が生じたり、[問16]のように解答が最初のせりふに含まれている場合もあるので、順を追って最後まで聞き通して確認する慎重さが欲しい。

<第3問B>対話ビジュアル (6点：解答数3)

- 対話を聞き、その内容からわかることを表の空所に埋める
- 対話の総語数：約150語

聞き得た情報を順に図表に当てはめてゆく。選択肢そのままの固有名詞が読まれるので、年代ごとに名前を順に確定していく。情報は時間の推移順に出てくるとは限らないし、最初に出てきた情報が状況により変化する場合もあるので注意を要する。

<第4問A>

Short Passage 内容Q&A (6点：解答数3)

- Short Passageを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する
- 各台詞の総語数：100語前後

問21

Hello, Takashi? This is Rose. I'm in Kyoto now. I enjoyed staying with you and your family last week. Sorry to bother you, but I've got a problem. I can't find my gloves. Have you seen them? Maybe I left them on the table in the bedroom, but I'm not sure. They're green and match my coat. If you have them, can you please call me here? The number is ... oh, I hardly stay in my hotel room, so I'll contact you again tomorrow. Thanks. Talk to you later.

質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねてゆき、求められる情報の所在を明らかにする。、but、so等、論理の展開に重要な鍵となる接続語に注意する。選択肢では答えとなる語が別の表現で表わされ

る (gloves のことを something she can't find) ことも多い。

<第4問B> 説明文内容Q&A (6点: 解答数3)

- 説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する
- 説明文の語数: 約190語

質問文に目を通し、事前にどれだけの状況想定ができるかがポイント。あとは話の流れに沿って順に問題に当たってゆく。要求された情報を正確に取り出す力が要求されるが、ここでも選択肢では答えとなる語が別の表現で表わされている (to stay in touch and communicate about important issues を to continue to exchange ideas [問23]、objective を goal、world leaders を influential people [問25] 等)。メモを取りながら、質問されるポイントの個所を絞って聞くことが大切である。また、1回目と2回目の読み上げの間に約40秒のポーズがあるので、情報が出揃った段階で各問の答えに目星をつけておき、2回目は確認の作業に当てたい。

3. 対応のポイント

① 聞く前に状況・場面を想像する

事前に問題指示文、選択肢、イラスト等に目を通し内容を推測しておく。聞く前に精神的なプレッシャーをできるだけ少なくすることも正しい聞き取りへの第一歩である。

② 会話特有の表現に慣れる

話の展開がつかめれば自然に聞くことができるが、We're running late! Hold on. [問10] のような会話特有の表現や、So, with a cat and a dog you'd pay double? [問14] のような平叙文が話し方によっては相手への質問となることにも慣れておきたい。

③ 対話の流れや方向性をつかむ

最後の発言に対する相手の応答を考える場合(第2問)、答えとなる情報はそのまま与えられている訳ではない。それまでの話の流れを理解し、これからどのような展開になるのかを推測する能力が求められる。その際、一般に予想される展開とは違うものになる場合もあるので、思い込みは禁物である。また、その他の問題でも、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最

後まで同じとは限らない。最後まで慎重に状況を確認したい。

④ 言い換えの表現を読み取る

リスニングと言っても選択肢を読み取る力は同様に要求される。流れる英語の表現がそのまま選択肢に入っているとは限らず、ある表現を別の形で言い換えてある場合も多くある。正答のカギとなる情報をきちんと整理する能力も求められる。

⑤ 全部完璧に聞き取れなくてもよしとする

筆記試験で英文を一字一句完璧に理解する必要がないのはリスニングにおいても当てはまる。聞き取れなかった箇所を悩み込んでしまうと次を聞き逃すことになる。たとえ理解できなかった部分があってもそのまま流し、「残りからさかのぼって推測すればいい」と思うくらいの余裕が欲しい。

4. 日頃の学習で大切なこと

① 英語の音を聞くことを習慣にする

「継続は力なり」とよく言われるように1日5分間でも英語を聞き続けることが大切である。センター試験の英語はナチュラルスピードよりも若干遅く話され、独特のリエーションもあまりない標準的なものである。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣としておき、英語を聞く抵抗感をできるだけ少なくしたい。

② 聞いた音を真似して声に出す

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。そのためには、耳に入ってきた音を実際に口にして練習をする。最初はただの口真似にしかすぎなくとも、慣れるにしたがって徐々に内容が頭の中に入ってゆくのを実感できるであろう。

③ 語彙を増やし、自分で表現する練習をする

提供される情報の内容を理解するためには基本的な語彙力が必要である。知らない単語は聞き取ることができないし、あやふやな理解では誤った情報を受け取ってしまう可能性がある。また、内容を整理して別の表現で言い換える練習も積んでおきたい。